

情報交換及び地域の学習を通して、小中4校の望ましい連携のあり方を探る

主題設定の理由

同じ地域に学ぶ子どもを教育する立場で地域がかかえる教育課題を共有し、今年度もその解決に向けた交流を図る。

I 研究の内容

《第1回》臨地研修

8月25日(水) 13:30～ 会場：サントネージュワイン株式会社

- ・会社の方からの説明による臨地研修

《第2回》授業参観

11月7日(水) 15:00～ 会場：日川小学校

- ・学力向上パイロットスクール事業の公開の授業参観

《第3回》講演会

1月16日(水) 15:00～ 会場：山梨小学校

- ・現役アナウンサー浅川初美さんの「わかりやすい話し方講座」

II 成果と課題

1 成果

臨地研修においては、詳しい説明をしていただき、地域の産業の様子がよくわかった。地域にありながらなかなか足を運ぶことができない施設を知る機会となった。また社会科の学習のヒントにもなった。特に中学年の社会に生かせる。さらに、小中の教職員の交流ができてよかった。

日川小学校の授業参観は、今年度、学力向上パイロットスクールの指定校となっていたので、その事業の公開を本ブロック交流研究に充てた。公開授業であったので、南中ブロック以外の先生方も多く見えた。3年生と6年生の授業の後にすぐ分科会(授業リフレクション)が持たれ、その後全体の研究会が体育館で行なわれた。指導助言の早稲田大学教職大学院田中博之教授や県義務教育課副主幹・指導主事清水弘美先生、峡東教育事務所指導主事の小林俊彦先生のお話が大変勉強になった。中学校の教職員にとっては、小学校の授業の様子を見ることができ、小学校の教職員にとっても他校の様子を知ることができ良かった。評価セッションという新しい方法での取り組みにも大変刺激を受けた。今後、課題をもとに小学校同士で意見交換するなどの機会がもてるとさらに効果的だと感じた。

講演会では、職種の違いの現役の山梨放送のアナウンサーからお話をうかがうことがで

き、貴重な機会となった。言語活動の重要性が強調されている中、タイムリーな講座であった。話し方の基本についての指摘や指導があり、話し方だけでなく、聞き方も大切であること、伝えることの大切さを教えられた。職種は異なっても、子どもや保護者の前で話すという点では、すぐに授業等で生かせる大変役立つ中身であった。その方法も実際に声に出し演習し、具体的に指導していただき楽しい実りある講演であった。

2 課題

- ・ 臨地研修では、工場内での作業の過程を実際に見学できると良かった。収穫の時とずれていたのでは、時期も考えた方がよい。
- ・ 地域の文化遺産等は個人的に見学できるので、夏の臨地研修については見直しが必要かもしれない。
- ・ 今年度は公開授業とブロック交流研究授業参観を兼ねたので、研究会の都合上、本ブロックだけの研究会が持てなかったのが残念であった。小学校6年生が、中学校入学説明会の日、中学校の授業を体験したが、教職員同士の情報交換はない。小中で連携して取り組むことが望ましい子どもの育成につながると思う。
- ・ 各校で実践しているもの（ワークシートや評価）を共有できるとよい。
- ・ 研究テーマの「情報交換を通して、小中4校の望ましい連携のあり方を探る」という点においては、日川小学校の学力向上パイロットスクール事業の公開授業と兼ねたので、単独で小中4校の情報交換の場を設定できなかった。来年度は、先を見通して計画が立てられるよう確認したい。

3 研究方法の工夫について

- ・ 小中連携の必要性が叫ばれている時だけに、実践的に子どもたちの指導に生かせる内容にしていった方がよい。毎年3回目のブロック交流研究会に、3つの小学校6年生の授業参観を実施し、意見交換・情報交換を行なう。そして中学1年生の授業参観を1回目のブロック交流研究会に実施し、意見交換・情報交換を行なうのはどうか。そして夏の臨地研修を講演会とするのはどうだろうか。深まりのある研究につながるよう工夫ができるとよい。

III 成果物

1 研究授業 日川小学校

志村貴美子 教諭 小学校3年 国語

「食べ物のひみつを教えます」

日野原和貴 教諭 小学校6年 総合的な学習

「川倉のすばらしさを伝えよう」

(ブロック長 長嶋 明美)